

多くの支え人と感謝

星野 勇斗

十月二十三日五時五十六分新潟県中越地震
が山古志をおそった。

地震直後、外に出た。家はまだご飯を食
ていなかかった。腹がへった。だけと家に入り
れなくてなにも食べられない。外に出てるから
寒かった。でも毛布などはない。でもそのと
きは近所の人たちのおかげでのりこえた。そ

山古志小学校

してひなん所にうつった。ひなん所は広いと
はいえない。そしてまともにおれない。いつ
勉強できるかいつふつうのくらしができるか
なご心配していた。

そして、ひなん所に入ってきた。多くの
支えんがくるようになった。ひなん所に入
るとぼくたちにご飯を食べさせられるため
、自衛隊が来てくれた。毎日ご飯を食べさせ
てくれるのでご飯のことは心配しなくなるよ
うになった。ひなん所がせまかったこともあ

ったが遊べずひまだった。そういう毎日だった。けれどある日ボランティアがぼくたちのために来た。そしてひな人所に遊ぶスペースができた。ほぼ毎日をしよに遊んだ。これでごひまじゃなくなつた。でもまだ心配なことがある。それはいつひな人所生活はおわるのかと言うことだ。その後仮設住宅の計画などが始まつた。そしてぼくたちは阪元上小学校の中に山古志小学校を入れてもらつた。また文具をもらつたり勉強で使うものを全国が

山古志小学校

らおくれ、こきてもらつた。ぼくたちはこうして支えんしてもらつた。

ぼくたちはたくさんを支えんしてもらつた。自衛隊がご飯を食べさせこくれよかつた。ボランティアが来て楽しく過ごせてよかつた。仮設に住めるよになつてよかつた。学校にいけて勉強とかできよかつた。

ぼくはいろいろな人に感謝してます。だからこれからも支えんしてくれたい。たぬにがんばる気持ちだ。